



もりた洋一の一般質問



1. 子育て支援について

(1) 保育所入所待機児童の現状認識と解決策は。

答：保育所3箇所新設・1箇所増設で360人定員数を増やす。
0-2歳児に特化した施設を含め新たな保育所整備により待機児童解消に努める。

(2) 子育て支援とマーケティング戦略の連動をどう考えるか。

答：共働き子どもありの世代を住民誘致のターゲットとしていることから、子育てにやさしい街のイメージを醸成して住みたくなるような街づくりを実施する。

(3) ライフステージに合った支援策が必要ではないか。

答：子どもの成長や生活状況に応じて、子育て支援サービスのニーズが変化する。仕事と子育ての両立ができるように施策を展開する。母子保健サービス・保育所整備・子育て不安解消や親子の交流支援幼稚園補助・子ども医療費助成・学童クラブなど子どもの成長に合わせた良質な子育て支援サービスに努め、流山に長く住んでもらうようにする。

2. 上下水道の統合に関する諸課題について

(1) SWOT分析（内部環境の強みと弱み・外部環境の機会と脅威）

をどうとらえるのか

答：上水道部門

強み：積極的アウトソーシング導入

弱み：民間企業のような利益重視ではない

機会：給水人口の増加

脅威：水道離れや給水収益の伸び悩み



答：下水道部門

強み：国庫補助金利用による事業費確保

弱み：市債残高が平成26年度まで年々増加する

機会：人口増加による下水道利用者増加

脅威：下水道使用料の伸び悩み

(2) 組織の改善をどうするのか。

答：アウトソーシング可能な事業の検討や経営の効率化に応じた組織体制の構築。

(3) 財務体質の改善をどうするのか。

答：上水道は市債113億円の減少、下水道は一般会計からの繰り入れ抑制。

3. 生物多様性について

(1) モニタリング調査と野生動物の広域性をどうとらえるか。

答：生物多様性がなげやま戦略を基本に、NPOや大学と協働でモニタリングを実施して、生物多様性の保全や回復に努める。
国や県とも協力して、適正な自然環境の保全や野生動物の保護を進めるべきと考える。

(2) エコツアーの実施をどう考えるか。

答：市民活動で活発に実施しており、シティーセールスの側面もある。
本市の自然の豊かさを情報発信することも、重要である。

4. 流山本町と利根運河を中心とした観光施策の充実について

どう考えるのか。

答：8月1日には流山本町の見世蔵がオープンして万華鏡や各種イベントは好評である。利根運河交流館では、レンタサイクル事業を4月より土日限定でスタートした。

今後、産業振興部内に観光振興を推進する専門組織を立上げ、経済効果をもたらす仕組みを構築する。

